

## 海外出張報告書 (2019.7.15)

### 国際理工学アカデミー評議会総会 (CAETS Convocation 2019) 出席 CAETS 理事会・CAETS 評議会・CAETS 併催シンポジウム・講演 2・パネル他

小泉英明

EAJ 上級副会長・国際委員長

**出張目的：**国際理工学アカデミー評議会（注1）（CAETS: International Council of Academies of Engineering and Technological Sciences）の総会に参加し、EAJ のプレゼンスを上げるために積極的な活動を行う。また、2 国間連携実施中（米国・豪州・中国・韓国・英国の各工学アカデミー）あるいは実施予定（ドイツ・スウェーデンほか）の各国工学アカデミー代表と、Face to Face の連携打ち合わせ会議を行う。

今回の総会は創立 100 周年を迎えたスウェーデン王立理工学アカデミー (IVA) がホストを務めた。

< (注1) CAETS の訳語は、初期の NEJ NEWS の頃から、複数が使用されてきた。ここでは原文の直訳に近いものを採用している。現在、工業化 (Industrialized) された約 30 カ国の代表理工学アカデミーが、定款 (Bylaws) の条件を満たして加盟を許可されている >

**期間：**2019 年 6 月 24 日～6 月 28 日

**同行者の方々：**EAJ 大江田常務理事 (CAETS 委員長)、伊藤義和理事 (EAJ 国際委員会委員、東京医科歯科大学教授)、安井正人 EAJ 国際委員会委員 (KEIO University Global Research Institute: KGRI 所長)、杉山正和 EAJ 国際委員会委員 (CAET エネルギー委員会委員、東京大学教授)、高橋かよ CAETS プログラム委員 (理化学研究所)。なお、EAJ/IVA ルート外からの招待では、原山優子 EAJ 理事 (元総合科学技術イノベーション会議議員、東北大学名誉教授) が IVA Symposium のみに参加され Society 5.0 に関して講演。

**会場：**IVA Conference Center (理事会・評議会・テーマ別討議)、Norra Ratin Conference Center (IVA 併催シンポジウム)

**面談者：**Tuula Teeri スウェーデン工学アカデミー (IVA) 会長、Magnus Breidne 前副会長・前国際委員長、Elin Elliot 新副会長・国際委員長、Li Xiaohong 中国工程院院長、Oh-Kyong Kwon 韓国工学翰林院院長、Hugh Bradlow オーストラリア理工学アカデミー会長、Dame Ann Dowling 英国王立工学アカデミー前会長、Dan Mote, Jr. 全米工学アカデミー前会長、Lucio Careres ウルグアイ工学アカデミー会長 (昨年の CAETS 総裁)、Ruth David CAETS 事務総長他多数。

## 御礼

この度の EAJ からの CAETS Convocation 2019 参加者の多くは、それぞれの他の出張案件と兼務にて独自の渡航費用で参加下さいました。深く感謝致します。

出張報告は大江田常務理事(CAETS 委員長)が全体を纏めて報告下さっていますので、本出張者(小泉)は単独で出席した CAETS 理事会と「Engineering Education」部会を中心に報告し、他はごく要点に留めております。

## I. CAETS 理事会への出席と結果

### 1. 出席経緯

出張者は 2016~2017 年(2年間) CAETS 理事を務めた。加盟国のローテーション順からすると同じ人間が理事を副数回務める可能性は無いが、今回はノルウェーが CAETS 理事を出せない特別な事情があった。事前に Ruth David CAETS 事務総長から阿部博之 EAJ 会長に要請があり、出張者が再度 2020~2021 年(2年間)の理事候補となった。理事会にて議長からこの特別事例の説明があり、再任受諾を感謝する旨の発言とともに、出張者の理事再任が承認された。理事会・評議会の承認前であったので、理事会への参加はオブザーバーという立場で出席した。

### 2. 理事会の審議内容と結果

(1) Bill Salmon CAETS 事務総長の急逝により、CAETS 2017(スペイン)以降、全米工学アカデミーの Dr. Ruth David が新しい事務総長となった。現在もまだ過渡期にあり、また、引き継ぎ書類が明瞭でないこともあって、CAETS 事務局はまだ混乱しているが、新たな方向の模索を開始した。しかし、全米工学アカデミー(NAE)の会長改選により、やはり急逝した Chuck Vest 会長(元 MIT 総長)の後に急遽就任した Dan Mote 前会長の任期が終了し、新たに John Anderson 会長が就任している(ただし、NAE は今回の CAETS2019 に旧体制で参加した)。

(2) 理事会での CAETS 方針。

(A) 定款(Bylaws)に適合する理工系アカデミーの積極的なリクルート

(B) 全体方針の策定(戦略グループ組織化)と主要課題の議論の深耕

(3) 新たな加盟アカデミーの理事会承認

本年度から加盟するニュージーランド理工学アカデミー、ナイジェリア理工学アカデミー、セルビア理工学アカデミーの現状並びに調査結果の報告について審議。Endorsement を総裁・前総裁で分担し、3件すべて評議会の承認を得る方向で決定。これで CAETS 加盟のアカデミーは合計 30 となる。

(4) 2019 会計年度の会計報告並びに 2020 会計年度予算案を理事会承認。

A: 2019 会計年度 CAETS 予算: \$ 83,430

B: 2020 会計年度 CAETS 予算: \$ 84,460

(総資産概算値: CAETS 銀行口座残高: \$ 305,346 (20.06.2019 現在))

(5) 翌日から二日半の予定で開催される CAETS 2019 併催シンポジウム (IVA 創立 100 周年記念) の内容を審議、IVA の計画通りに承認された。また、来年の CAETS Convocation 2020 (主催: 韓国科学技術翰林院 (National Academy of Engineering Korea: NAEK)) は、以下の内容で承認された。

開催日時と場所: 2020 年 6 月 22~25 日、Seoul, Korea

現時点での主要テーマ案

A: Engineering the Hyper Connected Future

B: Building a Smart Energy Network for Urban Environments

C: Tackling Climate Change Issue & challenges in the Urban Environment

D: Educating the Next Generation of Industry-Engaged Engineering Youth

## II. CAETS 理事会以外の結果

1. 上記の理事会承認結果が、27 カ国のアカデミー代表 (多くは各理工学アカデミー会長もしくは上級副会長) による評議会 (6 月 27 日 (木) 午後開催) に諮られ、項目ごとの挙手にて全ての案件が承認された。

2. 6 月 24 日 (月) 午前中に開催された上記の理事会の後、当日午後から CAETS の主要テーマを明確にするための討議が、4 つのセッションに分かれて実施された。

(1) Diversity and Inclusion

(2) Engineering Education

(3) Communicating with the Public

(4) Sustainable Development Goals (SDGs)

\* 本出張者は、Ruth David 事務総長から (2) Engineering Education のセッションにて基調講演を依頼されていたので、「Engineering Education」と題して講演した。

その中で、STS *forum* の工学アカデミー会長会議 (Academies of Engineering Presidents' Meeting: AEPM) にて纏めた「AEPM 京都宣言」(AEPM Kyoto Declaration) を紹介した (この宣言は、Engineering Education と Engineering Ethics が骨子となっている)。

\* また、講演用に「The Background of the AEPM\* Kyoto Declaration at the STS *forum*」という一枚の要約を作成し説明した。この目的は、EAJ が主導して上記の工学アカデミー会長会議を主宰した最初の段階 (2013 年当時) で、当時の CAETS 事務総長である Dr. Bill Salmon から極めて強い抗議があった。当時の STS *forum* にはかなり多数の CAETS 加盟の各国工学アカデミー会長が参加しており、CAETS と競合すると誤解されたためである。今回は、この CAETS の誤解を解消する良い機会となった。

\* 「AEPM Kyoto Declaration」と「The Background of the AEPM Kyoto Declaration

at the STS forum」は CAETS のホームページに掲載された。

- \* 基調講演の結果、「Engineering Education」分野を主宰する議長から、今後の連携を要請された。
  - \* 一部がパラレルセッションのため、EAJ からの参加者で分担出席した（本出張者、大江田常務理事、中島義和理事、杉山正和会員）。
  - \* SDGs のセッションも欠かせないが、CAETS Energy Committee に出席した杉山会員が、これにも出席下さった。EAJ の武田晴夫 SDGs プロジェクト委員長が、プロジェクト概要を示す英文資料を急遽作成して日本からお送り下さった。会議の朝に本出張者から杉山会員に資料を手渡すことができた。
3. IVA 創立 100 周年記念併催シンポジウムの概要と結果は別紙の写真版報告書記載。
  4. 主な 2 国間アカデミー会議
    - (A) オーストラリア理工学アカデミー (ATSE) は、Hugh Bradlow 会長他参加。  
日豪環学的シンポジウム (ERLEP 同窓会) の準備状況を相互に確認・討議。ATSE は政府資金の調達は進行中 (未決定)。
    - (B) 韓国工学翰林院 (NAEK) は、Oh-Kyong Kwon 韓国工学翰林院院長他参加。  
アジア工学アカデミー円卓会議 (EA-RTM) の準備状況の相互確認。  
来年の CAETS Convocation 2020 (韓国ソウル) にての EAJ の協力を確認。
  5. 10 月 24～25 日に開催される IVA100 周年記念式典に、正式に招聘された。

### III. 結論

1. EAJ の国際活動において、CAETS との連携は極めて重要であることが再認識された。EAJ は CAETS 理事 (任期：2020～2021 年) として注力する。
2. 世界のアカデミー間連合が進む中で、CAETS との連携を中心軸として、他のアカデミー連合 (Euro-CASE: The European Council of Academies of Applied Sciences, Technologies and Engineering, IAP: Inter-Academy Partnership) との連携や 2 国間連携に注力する。
3. CAETS の活動の内、特にエネルギー・工学情報・工学教育・工学倫理を中心として EAJ のプレゼンスを増すことに注力する。

—以上—